

ひたちの文化

2	エッセイ⑩⑤	小峰 力さん
3	切り絵に親しむ④	竹蓋 年男さん
3	日々を詠む⑨⑨ 選・評	櫻村 奎子さん
4	My 仕事⑫⑫ <small>株式会社クレイマ</small>	中村 俊仁さん



5	ふるさと探訪パートⅡ⑦⑨
6	10Qじいじさんのちょっと笑える夜空のお話し⑧
7	チーズこぼれ話 木樽 博さん
8	令和4年ふるさと日立カレンダー



「駒つなぎのイチョウ」

撮影：森脇 道男さん（東町在住）
撮影場所：大久保鹿嶋神社

一瞬、背中を強く押されるような一陣の風があたりを通り抜けた。まさに小春日和を絵に描いたような陽気だ。車を停めてここまで来るのに随分歩いてきた。少し汗ばんだ背中にこの風はすこぶる心地よい。ふと視界の端に動くものを捉え、天を振り仰ぐ。鮮やかな黄金色の木の葉だ。枝から離れたそれは、午後の柔らかな陽ざしを浴びながら舞い上がり、そしてゆつくりと舞い落ちる。その姿は、フィギアスケーターの四回転ジャンプのスローリプレイを連想させる。

ほどなくして木の葉は地上に着地し、かつて同じ枝に付いていた兄弟たちと合流する。そして秋風が吹きすさぶ度に木の葉たちは優雅なワルツを踊り、神社の境内は舞踏会場へと様変わりするのだ。木の葉の擦れ合うカサカサという音が心地よい伴奏曲となって興を添える。タクトを振る指揮者は秋風だ。

太陽が山の陰に沈むと途端に空気が冷んやりとしたものになる。吹きつける風が体温を奪い、人々は時間を気にしつつ俯うつむきがちに家路へと急ぐ。

まだ木々に残る葉も、時を惜しむように、まもなく一枚残らず落とされるだろう。だがそれは厳しい冬を乗り越え、明くる年の春に再び芽吹くために必要な準備である。大木の生命力は、冬の寒さに抗うように、その身の内に力を蓄え、次の秋にまた見事な黄葉を披露するに違いない。

冬の足音は、もつとこまで忍び寄ってきている。



大高かおる堂のすぐ近く

日立の老舗菓子屋大高かおる堂の姉妹店として開業した喫茶店詩穂音(シフオン)は、おかげさまで20周年を迎え、今年で21年が経つ。これまで豊かなお客さまに恵まれ続けている。「ありがたいとございマスター」である。菓子職人の妻と絵描きの僕が切り盛りする喫茶店では、ただ飲食をする場に留まらず絵画展を企画したり絵画教室も行って地域の方々と交流を深めてきた。

エッセイ

105

詩穂音アトリエ化計画

小峰 力



小峰 力(こみね つとむ)

東京都府中市出身48歳。2002年から日立在住4人家族。多摩美術大学卒業後、東京をはじめ各地で展覧会を開催。作家活動、喫茶店マスター、絵画教室講師、展覧会イベント企画など人と関わる仕事を“生き方”と思い日立での生活を満喫中。



ギャラリーを併設した店内

近年、県北生涯学習センターと日立市民会館でも絵画サークルの講師を務めさせていただいたり東京での発表が主軸ではありながら、日立周辺の店やギャラリーで僕自身の絵画展を開催していただけの事も増えた。詩穂音企画展はひとつの展覧会を1か月とすることでゆっくり美術を楽しむ場になっている。貸しスペースとしてではなく各作家たちと話し合い共に空間を

つくってきた。さらに作品を購入する人もいて美術を所有(コレクション)する楽しみ方が定着しつつある。絵画教室は小学生から大人まで自由創作やデッサン油絵を描き、年々この日立周辺の高校生などがウチから美術系大学に進学している。たぶん近々アーティストになって活躍する子も出るだろう。東京都府中市出身の僕にとって故郷に勝る出会いの数々をこの場で全て披露したい気持ちがあるものの、残念ながら与えられたページには納まらないので、また機会があったらと思う。よく日立は何も無いと言う人がいるが、何も無いとはどういう事なのだろうか?何か外側と比べ不足しているモノばかりを見ていたところで大切なモノには辿り着けないと感じている。

月2回の絵画教室では生徒たちが熱心に絵を学ぶ



妻の作ったお菓子や雑貨など



文化は与えられるのでなく人が人と繋がり育むのです。さあ。詩穂音がみんなのアトリエになることを願って! レッツゴーだぜ!!

僕は喫茶店でマスターをしてきただけけど、才能に溢れた人たちが目の前に現れては次々に美しい未来を想い描いている。日立にとって必ずやモノに頼らない新しい時代をつくらせたい。日立が益々好きで仕方がないのだ。

ほっこり! 素敵な出会い

コロナ禍で旅行やコンサートを自粛していた方も多いかと思いますが、コロナが落ち着いたら、どのコンサートに出掛けようか計画を練っている方もいらっしゃるのではないでしょうか。今年度は、当初の予定から3回の延期を経てようやく開催できたコンサートがありました。「いつになったらできるのだろう」とみんなが待ち望んでいる中、チケットを1年以上大切に持っていてくれてありがとう。そして、市民会館へ足を運んでくれてありがとう。感謝の気持ちでいっぱいです。

終演後ロビーへ出て来られたお客様の笑顔に触れ、職員も同じくらい笑顔になったコンサートでした。やはり、コンサートホールで聴く音楽は良いですね。来年も、広報誌“ひたちの文化”で、日立の文化に触れていただき笑顔をお届けできるよう、様々な情報にアンテナを巡らせ発信してまいります。楽しみにしてください。

今年も残りわずか。どうぞ、良いクリスマス&新年をお迎えください。

まちのサロン 市民会館

切り絵に親しむ

竹蓋 年男

4



たけふた としお

日立市出身。2003年に塾の講師として真壁町へ赴任。茨城県で開かれた国民文化祭をきっかけに作品制作を始める。2014年に地元の旅館で初の個展を開き、その後は切り絵教室や切り絵の会を通して町おこしの活動を続けている。

切り絵で語る茨城の祭り

昨年から続いているコロナ禍の中、さまざまな生活様式が変化しました。マスク着用や三密回避は当たり前。結婚式や学校行事も今までのように開催できません。特に日本の祭りに大きな影響を与えました。茨城県内にも歴史と伝統を継承しながら続けられてきた祭りが

たくさんあります。そんな祭りが私は好きで、切り絵の題材にたくさん取り入れてきました。今回はそれを切り絵で紹介します。

まずは常陸大津の御船祭北茨城市。5年に一度行われる春の大祭で、ソロバンと呼ばれる木枠の上を若者たちが揺らしながら曳いていく様は勇壮です。写真や動画で見たことはありましたが、実際に自分の目で見て肌で感じて描き上げた

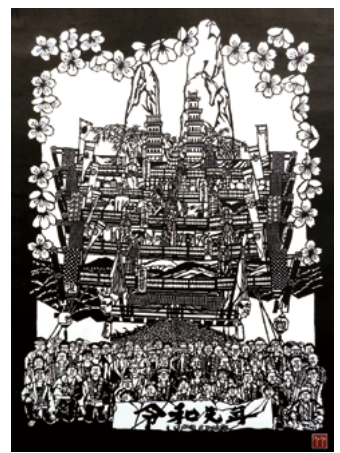
作品です。

次は石岡のおまつりでも知られる関東屈指の例大祭。高張提灯を先頭に曳いていく山車や幌獅子が有名ですが、私はいつも神楽殿で行われる巫女の舞いに注目しています。市内の小学5年生の児童の中から2名が選ばれ、2年間のお務めをする。言わば実力だけでは叶わない、運も味方してくれないのは務めることができないのが巫女の舞いです。そんな彼女たちに敬意を表しながら、その一場面を切り取ってみました。

3枚目は那珂湊天満宮祭礼である八朔まつり(ひたちなか市)です。鎌倉時代以来700年の歴史を持つ伝統的なもので、光圀公が東照宮に倣って祭礼の形式を定めてから400年が経ちます。山車に芸者衆が乗って「おっしやいなあ〜」と声掛けしながら進行するところが他

地域の祭りとは異なり、情緒深い港町らしい夏祭りの一つです。

4枚目は真壁祇園祭(桜川市)です。荒武者の祭りといわれる勇壮な山車の曳き廻しが有名ですが、この祭りの醍醐味は渡御と還御の儀であり原点だと思います。あまり知られていませんが、祇園祭に訪れる人々や真壁に住む人々、特に子どもたちへ語り継ぎたい風景です。最後は日立市が誇る郷土芸能「日立風流物」で、2009年にユネスコ「無形文化遺産」に認定されました。私が子どものころは地元の子どもたちが山車を曳いたものですが、



日立風流物タペストリー



平和通りの桜と日立風流物

今は少子化で難しくなりましたが、祭りの醍醐味は浄瑠璃の人形がくるくると回転して早変わりするところですが、個人的には那須与一が弓を射るところが好きです。この他にも数多くの素晴らしい祭りが県内には存在します。今までのような開催は難しくなりましたが、伝えたいことと想いを、そしていつかまた自由に出力けられる日が来ることを願います。



常陸大津の御船祭



石岡のおまつり巫女の舞



那珂湊八朔まつり



真壁祇園祭渡御出発式

98 日々を詠む

《選・評 櫻村 奎子》

萌え出づる伽羅の新芽のひかりをり
樹齢百年世相かかへて

鈴木 喜美子

早春の芽吹きには心を弾ませる力がある。作者は庭の伽羅の新芽のかがやきに、今を生きている喜びを噛み締めている。

樹齢百年という伽羅の木に九十余歳のわが来し方を重ねている。昭和・平成・令和の世相の証言者の一首である。(作者は日高短歌会会員)

My 仕事

こだわりを持って「カッコイイ自分」を創れ！

株式会社
クレイモア
エンターテイメント
中村 俊仁さん
(多賀町)

お洒落でセンスのいい、今どきのお兄さんという外見の中村さん。しかしその実態はバンドを組んでライブ出演し、イベントを企画実行し、カフェや服屋を経営し、地域振興にも貢献するなど、活動範囲は非常にマルチ。そんな中村さんに、お仕事の話や地元への想い、今の若者に向けたメッセージなどを伺った。



中村さん

僕は生まれも育ちも日立市です。小中高と市内の学校に通い、高校を卒業して音楽の世界に飛び込むまで日立にいました。今年で37歳になります。

戻ってきたこちらでやっていくのは、日立の街が好きで、日立に新しい文化を創って、活気があつたかつての日立を取り戻すためです。自分の原動力はその三つしかないです。



スタイリッシュな店内



カフェ「RUBAN」

はなかなか周囲から理解も協力もしてもらえないんです。しかし幸いなことに、地元のイベント業者さんや不動産屋さん、僕たちのやるうとすることを理解し、背中を後押ししてくれました。お陰様で徐々に周りにも認められるようになってきて、「普通と違うことをやるうとする時は彼らに相談してみよう」という流れになってきています。

株式会社を経営していますが、僕たちの活動の軸はバンドです。地方の人たちは紅白歌合戦やゴールデンの音楽番組に出演することがバンドのゴールだと思ってしまうんです。でも会社を立ち上げる前から僕たちはバンドで生計をたてていました。年間150本以上のツアーライブを北海道から沖縄まで回って生活してはいたんです。「ミュージシャンとしての成功＝メジャーデビューしてテレビに出ること」と思い込んでいた親たちの概念を変えられ



ライブハウス「Party x Party」



県内に2台しかない音響卓を常設

れば、小学校中学校から音楽を始めたり子どもたちにとつて「音楽の仕事に就く」という選択肢が増えると思つてます。演奏家でもいいし、アーティスト、作・編曲家、また今の時代は動画や音楽コンテンツのクリエイターという職業もあります。僕たちのように普段あまりやらないようなことをやる人たちが増えてくれば世界が広がるんじゃないかと思ひ、こつこつ活動をしていきます。

大企業に勤めて、燃費のいい車に乗り、安くて長持ちする服を着る。今の子どもたちは全てにおいて安定志向にはまっているんです。道を踏み外せということを言いたい訳ではなく、こだわりを持って自分をカッコイイ／かわいと思えるような環境を作つていかないとダメだと思つてます。昔はクラスで一番カッコイイ奴が学園祭でバンド演奏をする風潮でしたが、今はそういうのが全くない。そう



苦労してこの箱(ライブハウス)を一から造り上げた

いうところが全体的なカルチャーの広がりをつけてしまっているから、それを何とか覆したいと思つています。

今年に入ってから茨城町に土地を買い、自動車整備工場にリフォームし、カーシヨップを開店しました。今は男の子が自分で車を買わず、親のマイカーをお下がりでもらって乗る時代になってしまっているじゃないですか。やつぱり男の子はカッコイイ車や服に目覚めないと、仕事においても前に出て何かをやるという概念が減つていってしまう。今の若い子たちには「免許を取ったらバイクしてお金を貯めてカッコイイ車を買う」という目標を持つてもらふことで、頑張つて仕事に打ち込んで欲しいですね。その過程が人間の成長につながると思ひます。そのためにはまずはお店に足を運んでもらい、車に興味を持ってもらうところから始めていければと考えています。

ふるさと探訪パートⅡ- 79

サクリエ・地球コーナー 「日立の大地は日本最古」の楽しみ方

田切 美智雄 (日立市郷土博物館特別専門員)



日立シビックセンター科学館は大改修を実施し、サクリエという愛称で今春4月に新装開館しました。私が監修して制作展示された地球コーナーは、以前にはなかったものです。このコーナーは二つの部分から構成されており、一つは「化石発掘チャレンジ」、もう一つは「日立の大地」です。「化石発掘チャレンジ」は、インタラクティブ映像技術を用いて壁面に地層を投影し、その中に潜む化石を壁面をこすって発見するという



化石発掘画面

ものです。子ども達には大変人気があります。化石はカンブリア紀の生物、石炭紀の生物、白亜紀の生物の合計7種類が潜んでおり、化石の発掘が完了すると、再現された生物の画像に変わります。化石は一つの個体全体を発掘しないと完了しません。子ども達の発掘の様子を見てみると、化石の一部が出てくるのに、それが化石だとはなかなか認識できないように、大変個人差が大きいのは驚きました。このことは大人でも同じだと思いますが、経験値がものを言うようです。壁面の地層は右に傾いており、左側が古く(つまりカンブリア紀)、右側が新しい地層(つまり石炭紀と白亜紀)となっ



石の地図

ています。日立の多賀山地にはカンブリア紀や石炭紀の地層と、白亜紀の花崗岩が分布しているのので、これらの時代を代表する化石を選んでいきます。ただし、石炭紀の化石のみが日立で産出するものです。日立産カンブリア紀化石はまだ研究途上なので、採用していません。

「日立の大地」の展示は、実物の展示と映像とパネルの展示になっています。変成花崗岩(小木津石)と銅鉱石(日立鉱山産)の大きな標本を左右に展示しています。どちらもカンブリア紀の岩石で、触ってみてください。中央には岩石標本を貼り付けて作成した、日立地域の地質図を展示しています。地表の土や植生を剥くと、日立の地下はこのようになってい

友の会だより

ひたち市民会館友の会は 新しいステージへ

会長 武田 京子

ます。日立鉱山のあった場所に、銅鉱石が貼り付けてあります。見つけることができるでしょうか。

映像も二つの画面で展示しています。一つは「日本一長い大地の物語」です。日立のカンブリア紀の地層は日本で最も古い地層なので、日立の大地の歴史は日本列島の全史でもあります。古生代カンブリア紀から新生代日本列島の誕生まで解説付きスライドショーで見ることが出来ます。多賀山地が生まれた時、オーストラリアや南極がお隣さんだった!新生代中期に日本列島が大陸から分離して現

在の日本列島になるまでの図解は、本邦初公開です。

もう一つは、日立市海岸部の地形「まちを支える海岸段丘」についてです。どこが海岸段丘で何段あるのかや、海岸段丘のでき方を解説しています。実は、日立の海岸段丘は大変珍しく、5段の段丘が一望できることや、標高の高い高位段丘など、他では見られないものなのです。ご自身のお住まいはどの段丘でしょうか?

サクリエの「日立の大地は日本最古」で日立の大地の歴史を楽しんでください。

ひたち市民会館
友の会



本年も、昨年同様にコロナ禍で日立シビックセンター、日立・多賀市民会館、各交流センターが一時期使用できなくなり、私達にとつての活動ができませんでした。

さて、この一年間に「ひたち市民会館友の会」を(公財)日立市民科学文化財団へ移行しては、という話があり、委員会を設け話し合いを重ねています。発足以来37年間、会員の皆様と共に、私達の生活の中で、多くの文化に関する

ことを学びました。歌舞伎や劇団四季の観劇、海外のオペラ日本公演の鑑賞、美術館めぐり、プロ歌手の演奏会、春・秋の旅行など、一人ではなかなかできない事を楽しみました。私達の人生において、必要なもの、とても感慨深いものがありました。

今後は、更に充実したサービスマチが企画されており、友の会の内容も大きく広がっていくと思います。現在、友の会としての最後の行事を企画しているところでございます。皆様の御期待に添えるよう努力してまいります。



① ☆星☆を探せ!! ② 冬・春編

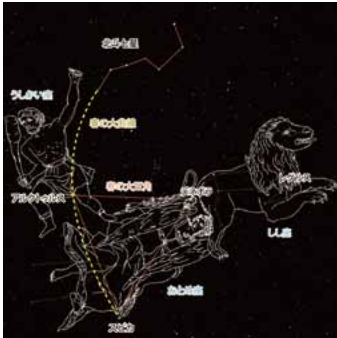
さあ、今回は冬と春の1等星を見つけてみましょう。まずは冬の1等星です。冬の夜8時頃南の空を見ていただくと、比較的に見つけやすいのがオリオン座です。4つの星でできた縦長の四角形と、その中心にきれいに斜めに並んだ3つの星でできています。四角形の左上の赤い星が1等星のベテルギウス、右下の白っぽい星も1等星でリゲルです。1つの星座に1等星が2つあるのは珍しく88個ある星座で3つだけです。四角形のほかの2つの星と真ん中に並ぶ3つの星も2等星ですので、とても見つけやすい星座です。このオリオン座が見つかるとほかの1等星も見つけやすくなります。例えば真ん中の3つの星を結んで左下に伸ばしていくところでも明るい星が見つけられます。これが1等星の中でも最も明るいおおひぬ座のシリウスです。逆に3つの星を結んで右上に伸ばしていくとオレンジ色の星が見つかります。これが、今期朝ドラの主題歌のタイトルにもなっているおうし座の1等星アルデバランです。因みにこの名前の意味がわかるとこの朝ドラの主題歌になった理由がわかるかもしれません。それではもう少し先に目を向けてみま

しょう。ほんやりとした小さな星の集まりが見つかると思います。それが清少納言の枕草子にも登場する「すばる」です。日本人は昔からこの星々を愛でていたんですね。今度はオリオン座の上のほうの高い空を見てください。ここにも黄色っぽい明るい星があります。これが五角形に星が並びぎよしゃ座の1等星カペラです。また、オリオン座の左上のほうを見ると明るい星が2つ並んでいます。明るい方がふたご座の1等星ポルクス、暗い方が2等星のカストルです。ちなみに、この双子は1等星が弟、2等星が兄です。先ほど見つけたベテルギウスとシリウスを結び線を底辺にして東側(左側)に正三角形を描くと、その頂点あたりに明るい星があります。これがこいぬ座の1等星プロキオンです。以上の7つが冬の1等星です。

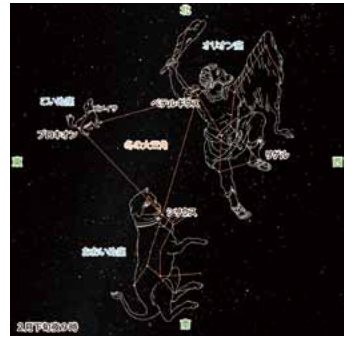
ここからは春の1等星に話を移しましょう。春は3つの1等星を見つめることができます。先ほど紹介したふたご座の2つの星から東の方(左)に目を移していくとクエスチョンマーク(?)を裏返しにしたような星



の並び？が見つかります。少し暗い星たちですのでよく見て探してください。裏返しにマークの下の・に当たる星がレグルスです。しし座のレグルスは1等星の中で一番暗い星です。残りの2つは北斗七星を使って探しましょう。北斗七星と1つ名前は皆さんもご存じだと思います。北の空を見るとひしゃくを横から見た形の星の並びを見つめることができます。神社



春の星座



冬の星座

などで水をすくう柄の長い道具がひしゃくです。北斗七星は北の空にひしゃくのような形の7つの星が形作っているのですが、名前が違ったわけですが、ひしゃくの柄の部分は真直ぐではなく、緩やかに曲線を描いています。その曲線の曲がりに沿って伸ばしていくとオレンジ色の明るい星が見つかります。これが、つしかい座の1等星アルクトウルスです。その曲線をさらに伸ばしていくと白っぽい星が見つかります。これはおとめ座の1等星スピカです。

茨城県で見ることが出来る1等星は前回と合わせて紹介した15個ですが、もう一つ見られる可能性があるので、シリウスに次いで明るいりゅうこつ座のカノープスです。茨城県は見るこたができる北限に近いので高度も低く赤っぽく見えます。そのため、実際の等級よりも暗く感じるの、見つけることができずには運が良いといえるでしょう。シリウスから視線を下げていくと水平線(地平線)ぎりぎりにありますが、滅多に見ることができないことから、見ることができれば幸せになれると長生きできると言われる星です。是非、見つけてください。興味がある方は日本から見えない他の5つの1等星も調べてみてくださいね。

ザ・ニューズペーパー-2022 in 日立市

日時 令和4年2月5日(土) 15:00 開演
 会場 日立市民会館ホール
 料金 全席指定 一般4,500円 友の会4,300円
 予約受付中 TEL 0294-22-6481 (日立市民会館)
 内容 政治・経済・事件・芸能・・・
 あらゆる分野で旬のニュースを爆笑コントに変える社会風刺集団「ザ・ニューズペーパー」が日立市民会館で公演!

ひたち街角小劇場第54弾 10周年記念公演 「いつでも夢を～吉田 正の夢」

日時 令和4年3月19日(土) 18:30開演 3月20日(日) 13:30開演
 会場 多賀市民会館ホール
 料金 一般前売 1,000円 一般当日 1,200円 小中学生 500円
 発売 令和4年1月30日(日)
 問合せ TEL 0294-34-1727 (多賀市民会館)
 内容 ひたち街角小劇場は結成から今年で10年目を迎えました。10年間の総決算として、加盟劇団による合同劇を上演します。テーマは戦後日本を代表する日立市出身の音楽家・吉田正。彼の知られざる物語をお贈りします。

チーズこぼれ話



執筆者プロフィール



こくれ ひろし
木樽 博

1948年群馬県出身。1972年から日立在住。NPO法人チーズプロフェッショナル協会顧問。1995年から日立酒楽会(ひたちさえ)を主宰。県北でチーズ、ワイン、ウイスキーなどを楽しむ会を主催。ワインエキスパート。チーズプロフェッショナル。フランスチーズ鑑評騎士。東京ウイスキー&スピリッツコンペティション審査員。

前号のエッセイコーナーにて、チーズの歴史と茨城県内のチーズ工房、そこで造られる多種多様なチーズを紹介していただいた木樽博さん。一度きりの掲載では勿体ない!ということで、今号よりシリーズ形式でさまざまな切り口からチーズの魅力を木樽氏に紹介していただきます。連載を読了するころにはあなたもチーズ博士になつているかも?

保存食としてのチーズ…

溶けるチーズ

コロナ騒ぎで、いつの間にか秋の収穫祭も過ぎ師走の冬の準備に入りましたね。冷蔵庫が發明される前の食料の保存は、植物性食糧の米、麦などは穀粒として乾燥させ、動物性の肉は塩漬けやハム・ソー



アルプスの山岳地帯で製造されている大型チーズ; フォンデュに使われるチーズ
(左奥がエメンタール 75~120kg、中央奥がグリュイエール 25~40kg)



パリの街角で食べたチーズフォンデュ



フランス~スイス国境の山岳地帯で造られているコンテチーズ(直径約60cm、重量約40kg)

セージ(シヤルキュトリ)にして保存し、乳は乳製品として保存し短期間ならばヨーグルトに、長期間の保存にはチーズやバターに加工していました。子牛の命の飲物で栄養豊富な牛乳は数日で傷んでしまうため、食料を採集できない時期(特に冬季)の食料として保管するために様々なタイプのチーズが長い歴史の中で考案されてき

ました。通常のナチュラルチーズの保存期間は、フレッシュチーズの場合1~2週間、白力チーズは4~6週間、マンステールなどのウォッシュチーズは3~4か月、ゴータやチエダーなどのセミハードチーズは3~6か月、グリュイエールやコンテなどのハードチーズは4か月から1年以上、パルミジャーノレッジャーノチーズなどの超硬質チーズは1年半以上であり、チーズに含まれる水分が少ないほど長期間の保存が可能です。この保存期間中にチーズ内に残存する乳酸菌などの菌が徐々に働き、チーズを軟らかくし、たんぱく質をアミノ酸に、脂肪を脂肪酸に分解し様々な風味(味わい、香り)ができてゆきます(熟成現象)。

一方、プロセスチーズはナチュラルチーズを溶かしてから冷却して固めたタイプのため、加熱によって熟成に有用な菌類が死滅する事で味わいの変化はなく、一般的には1年程度は保存できます。

冷蔵庫が利用できる前までは、冬を迎える前に数か月間保管できるチーズが必要でした。特に大型チーズとして代表的なものが、冬季に積雪の多いスイスとその周辺を中心としたアルプスの山岳地帯で造られているセミハード・ハードタイプのチーズです。ヨーロッパ史の中でも温暖であった中世の時期に、人口増加で食料調達の必

要性もあり修道院が山岳地区の開拓に進出します。6世紀から10世紀頃までに開拓が進み、13~14世紀には大型チーズ(20~30kg)の原形ができていきます。

現在と同じくらいの大ささのチーズは、17世紀頃にはできていたようです。皆さんが馴染みの「アルプスの少女ハイジ」のアニメにも出てくるラクレットチーズもその一つです。冬季になると積雪で家から出られなくなるため、夏から秋にかけて造って置いた大きなチーズを切り分けて、暖炉の火にかざしながらチーズを溶かして食べたチーズが「ラクレット」チーズです。溶けたチーズをナイフで削り取って(ラクレ)食べたところから名前が付けました。現在では、季節を問わず一年中、ラクレットチーズは食べられています。

チーズはミルクのたんぱく質と脂肪を固めた食べ物で、チーズのタイプによって異なりますがざっくり表現すると、チーズのたんぱく質は30℃以上になると柔らかくなり脂肪が分離し始め、60℃を超えると流れ出すようになります。この性質を生かした料理の一つが、寒い冬季に喜ばれている「チーズフォンデュ」です。白ワインと一緒にハードチーズを鍋で溶かし、パンや茹で野菜に絡めて食べる料理で、体が温まります。日本酒を使っても美味しい「日本酒チーズフォンデュ」が頂けます。プロセ

スチーズはナチュラルチーズを溶かしてから適切な大きさに冷やして固めたもので、フランスでは「フォンデュタイプ」と呼ばれています。冬場に鍋を囲みながら温かいチーズフォンデュなど、いかがですか?

パリのスイス料理店のフォンデュ(右上の鍋)、ラクレット(左下のフライパン)ハム・ソーセージに溶けたチーズを載せて頂く

パリの農業祭で見つけたラクレットのブース電気ヒータの上で温めたバケットに溶けたラクレットを挟んで提供していた



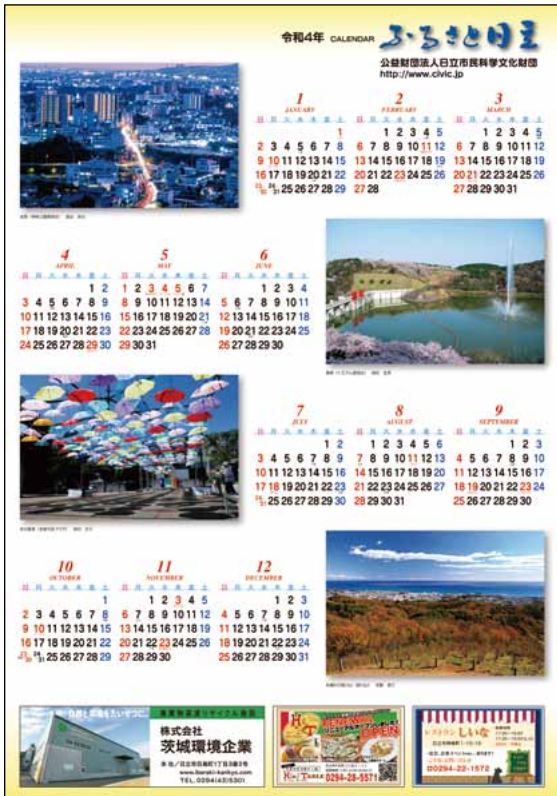
パリのスイス料理店のフォンデュ(右上の鍋)、ラクレット(左下のフライパン)ハム・ソーセージに溶けたチーズを載せて頂く



パリの農業祭で見つけたラクレットのブース電気ヒータの上で温めたバケットに溶けたラクレットを挟んで提供していた



ラクレットをセットしチーズ上方の電気ヒータでカット面を溶かし、茹で野菜などにかけて頂く



令和4年カレンダー「ふるさと日立」 市民のみならず無料で配布中

配布場所・日立市民会館、多賀市民会館、日立シビックセンター、日立市役所、各交流センター、各図書館ほか

日立の四季を彩る市内の風景、風物の写真公募に151点の応募がありました。その中から選ばれた写真を掲載したB2サイズのカレンダーを無料で配布しています。なくなり次第終了。

選ばれたのは、今夏、多賀市民プラザ広場／ギャラリーで開催されたSUNISKY傘空の様子を捉えた作品や風景の次の4点です。

季節	題名	撮影者	撮影場所
冬	夜景	島田 良治	神峰公園展望台
秋	秋晴れの助川山	佐藤 政巳	助川山
夏	傘の競演	高村 文子	多賀市民プラザ
春	静春	森田 定男	十王ダム展望台

令和5年カレンダー用写真募集

あなたの撮影したイチ押しの日立！の風景、風物に奮ってのご応募をお待ちしています。四季の4点を選びカレンダーに掲載します。

詳しくは、来春財団HPに掲載しますのでご確認ください。

来春より
募集開始!

私たちの文化のバックナンバーがWEB上で読めるようになりました!

(公財)日立市民科学文化財団のホームページに掲載しています。気になる記事をチェックしてみてください!

<http://www.civic.jp/hitachi/magazine/>



編集後記

◆毎年この時期、魚の小骨のように心につかえるのが年賀状の準備である。夫婦揃ってものぐさ太郎な我が家は直前まで取り掛からず、クリスマス前の恒例作業と化している。昔と比べて便利なツールが増えた。本屋で簡単に年賀状のデザイン集が手に入り、自宅のプリンターで手軽に印刷できる。◆しかしイラストが豊富すぎるゆえにどのデザインを使おうか迷ってしまい、結局いつもぎりぎりまで放置してしまうのだ。◆EメールやSNSの浸透に伴い、年賀状を出す人は年々減りつつあると聞く。考え方は人それぞれだろうが、個人的には正月に風情を添える一助としてこれからも年賀状を出し続けたい。できればクリスマスがやって来る前に。

(A)

表紙の写真



大久保鹿嶋神社境内の“駒つなぎのイチヨウ”の由来は、坂上田村麻呂が蝦夷征伐の折に戦勝祈願のため立ち寄り、イチヨウの木に馬を繋いだという伝説に基づく。イチヨウは雌雄異株の樹木だが、このイチヨウは雄株のため銀杏の実が生らず、少し残念な気もする。

撮影は東町の森脇道男さん。ふるさと日立カレンダー応募作品よりお借りしました。

発行 公益財団法人日立市民科学文化財団
「私たちの文化」編集委員会

〒317-0063 日立市若葉町1-5-8 日立市民会館内
TEL 0294-22-6481 FAX 0294-22-6633
HPアドレス <http://www.civic.jp>

※ご意見・ご感想をお寄せください。

